

平成三十年度 書道講演会

筆を持って五十七年

― 中でも魅力を感じたもの ―

連盟副会長 村上史麗

▼日時 平成三十一年一月二十七日(日)

▼会場 一宮スポーツ文化センター

▼講師 関根玉振 先生

支部集会終了後、引き続き支部講演会を開催しました。今年には公益社団法人中部日本書道会理事長の関根玉振先生をお迎えして「筆を持って五十七年」と題して一時間半の講演をお願いしました。

豊田市拳母町ご出身の関根先生は樽本先生との運命的な出会いがあり、五十七年にわたり書の道を極めていらっしやいました。現在日展準会員、読売書法会常任理事等数々の要職に就かれ、愛知県立大学においても教鞭をとられ後進のご指導にも熱心にあたられていらっしやいます。

書の習い方として①準備をすること②出会いを大切にすること③やり続けること④自分の良さを知る

こと、この四つの要素をご説明されました。ご自身も10代で楷書を20代行書を30代で隷書・篆書を集中して勉強されたことや、一つの臨書で10年勉強すると良いと教えていただきました。又、プロジェクターを使用されスクリーンにご自身の手書きの資料等が映し出されて、非常に興味深く、時にはユーモアを交えながらご説明いただきました。

最後に十二支を書いた額に入った素敵な作品を聴講された十二人の皆さんにプレゼントしていただきました。子・丑・寅それぞれの作品を手になされた方は満面の笑みで受け取られ良い思い出になったのではないのでしょうか。

関根先生いろいろご配慮いただき心より感謝申し上げます。



聴講者 一〇三名

(一般聴講者八名)